

プロジェクト名	教職実践力向上のための大学院実習高度化プロジェクト		
プロジェクト期間	平成 21 年～22 年度		
申請代表者 (所属講座等)	小泉 令三 (教職実践講座)	共同研究者 (所属講座等)	青木晃司 (教職実践講座) 森保之 (教職実践講座) 東和男 (教職実践講座) 高田清 (教職実践講座) 段裕明 (教職実践講座) 納富恵子 (教職実践講座) 谷友雄 (教職実践講座) 京極邦明 (教職実践講座) 花島秀樹 (教職実践講座) 若木常住 (教職実践講座) 西山久子 (教職実践講座) 大竹晋吾 (教職実践講座) 鈴木邦治 (教職実践講座)
取組方法および 取組実績の概要	<p>本プロジェクトでは、次の 3 点を検討した。</p> <p>①実習科目と講義・演習科目の関連づけの妥当性を、養成像の観点から検討した。その結果をもとに、授業科目配列、授業内容、授業方法の改善案を、平成 24 年度の教育課程編成に間に合うように立案した。</p> <p>②学部からの進学者の即戦力としての教職実践力向上について、実習の効果を量的 (アンケート)・質的 (面接) に検討した。</p> <p>③現職教員の教職実践力の高度化について、特にリーダー養成の観点から、実習の効果を量的 (アンケート)・質的 (面接) に検討した。</p> <p>初年度に、研究成果の中間報告を冊子・DVD にまとめ、実習協力先や県・市教育委員会、他大学院等に配布した。</p>		
研究成果の概要	<p>①実習科目と講義・演習科目の関連づけの妥当性を、養成像の観点から検討した。その結果をもとに、授業科目配列、授業内容、授業方法の改善案を、実習の成果と課題及び実習生の意見も反映させ、H. 24 年度の教育課程編成に間に合うように立案した。例えば、教育実践力開発コースでは、まず 1 年次に、開始期を変えることによりモデルケースとして附属教員の学級経営や授業実践に触れる実習を行う。それを踏まえ、2 年次に多くの実態に触れるために、連携協力校で行う実習「TA 実践インターンシップ I」及び「TA 実践インターンシップ II」を配置する。生徒指導・教育相談リーダーコースでは、リーダーとしての力量形成を確実なものとするために、I 期に授業実践を高度化するための「授業研究実習」を新設する。学校運営リーダーコースでは、「授業研究実習」を新設するとともに、現行の実習を有機的に再編成し、「学校組織マネジメント実習 I」、「学校組織マネジメント実習 II」、「学校組織マネジメント実習 III」とした。</p> <p>②研究実施の手続きや、研究遂行途中経過及び研究成果を、本専攻に関わる各種会合で教育委員会や実習校等と協議する中で、デマンドサイド (県・市教育委員会、学校など) のニーズをより深く共有し、カリキュラム改善に活かした。</p> <p>③全国の他の教職大学院および大学院入学希望者に、報告書等を配布し、本研究成果を情報発信する。</p> <p>④本学の他専攻・コースでの実習科目の開設や充実のために、報告書等を配布し、本研究成果を情報提供する。</p>		

外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について

外部資金獲得 申請（予定）	特別経費（概算要求）	研究成果の 公表方法（予定）	最終報告書を、学内及び各教育委員会、連携協力校等に配布し、成果を発信、提供する。
------------------	------------	-------------------	--